

令和3年(2021年)9月3日  
9月定例教育委員会  
報告事項ア

---

# 令和3年度 全国学力・学習状況調査の結果の概要

---

滋賀県教育委員会事務局幼小中教育課

# 令和3年度全国学力・学習状況調査結果の概要について

## 1 実施概要

(1) 実施日 令和3年5月27日(木)

(2) 対象学年

小学校第6学年、義務教育学校前期課程第6学年、特別支援学校小学部第6学年  
中学校第3学年、義務教育学校後期課程第3学年、特別支援学校中学部第3学年

(3) 実施教科

①教科に関する調査〔国語、算数・数学〕

※ 知識・技能、思考力・判断力・表現力等は、相互に関係し合いながら育成されるものという新学習指導要領の趣旨を踏まえた指導方法の改善等に資するよう、知識と活用を一体的に問われた。

②生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査

・児童生徒に対する調査 ・学校に対する調査 (Webによる回答)

※ 新型コロナウイルス感染症の学習面への影響を把握・分析するため、休業中(昨年度)の児童生徒の学習状況・環境等についての調査項目が新たに盛り込まれた。

(4) 実施校数 悉皆調査

	調査対象 学校数	調査実施校	
		27日に調査を実施した学校数	28日以降に調査を実施した学校数
市町立小学校	217	217	0
義務教育学校(前期課程)	2	2	0
特別支援学校(小学部)	1	1	0
市町立中学校	93	93	0
義務教育学校(後期課程)	2	2	0
県立中学校	3	3	0
特別支援学校(中学部)	4	4	0
公立学校計	322	322	

## 2 教科に関する調査の結果概要(公立)

○各教科における本県と全国の平均正答数と平均正答率(%)

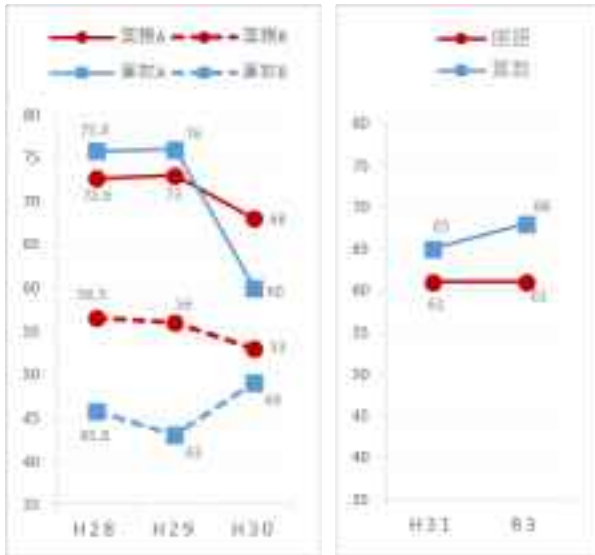
	教科	平均正答数/設問数			平均正答率		
		本県	全国	全国との差	本県	全国	全国との差
小学校	国語	本県	8.6/14	-0.5	本県	61	-3.7
		全国	9.1/14		全国	64.7	
	算数	本県	10.9/16	-0.3	本県	68	-2.2
		全国	11.2/16		全国	70.2	
中学校	国語	本県	8.8/14	-0.2	本県	63	-1.6
		全国	9.0/14		全国	64.6	
	数学	本県	9.0/16	-0.1	本県	56	-1.2
		全国	9.1/16		全国	57.2	

○ 平成 28 年度から令和 3 年度全国学力・学習状況調査の平均正答率の推移

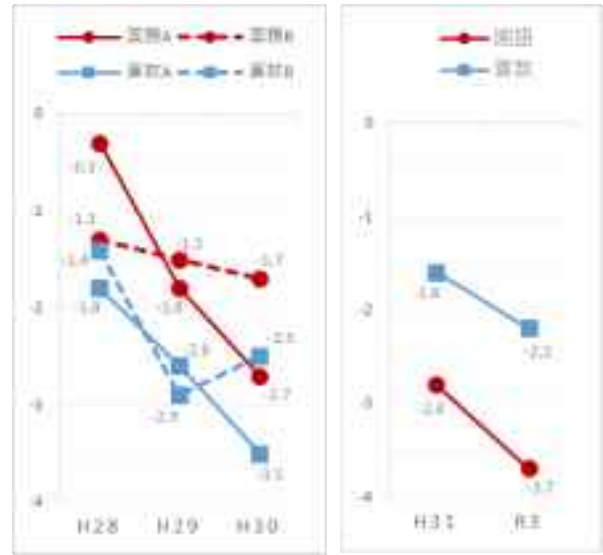
平成 31 年度から、主として「知識」に関する問題（A問題）と、主として「活用」に関する問題（B問題）という区分を見直し、知識・活用が一体的に出題された。令和 2 年度の調査は、新型コロナウイルス感染症の学校教育への影響等を考慮し、実施されなかった。

【小学校】

< 県平均正答率の経年変化 >

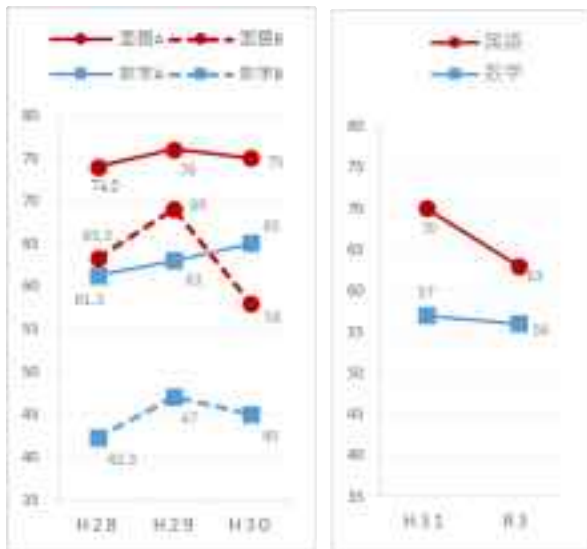


< 全国と県との平均正答率の差 >

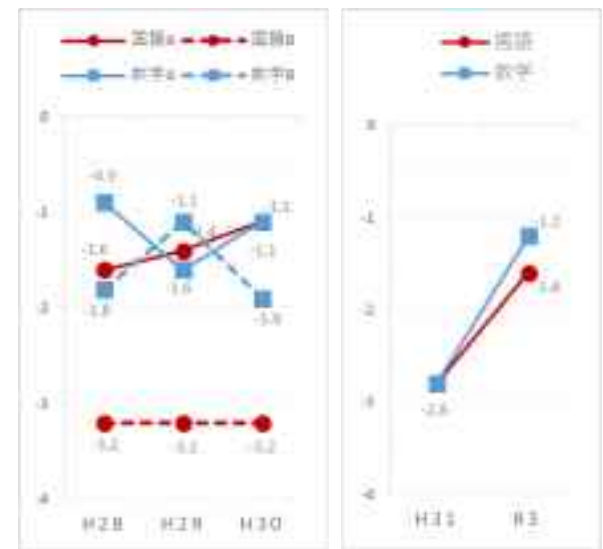


【中学校】

< 県平均正答率の経年変化 >



< 全国と県との平均正答率の差 >



[全国と県との平均正答率の差のグラフの見方]  
 ・縦軸0を全国の平均正答率として、各教科に関する調査結果の本県の平均正答率の差を折れ線で示している。  
 ・平成 29 年度から、各都道府県の平均正答率は整数で公表しており、全国の平均正答率との差も、その数値により示している。

【小学校】

<p>国 語</p>	<p>◆内容・領域や評価の観点、問題形式ごとに分析すると…</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○「読むこと」の内容では、滋賀県の正答率は全国（47.2）に対して3.5ポイント下回った。             <ul style="list-style-type: none"> <li>・文章全体の構成を捉え、目的に応じ、文章と図表とを結び付けて必要な情報を見付けたり、目的を意識して、中心となる語や文を見付けてまとめたりすることに課題がある。</li> </ul> </li> <li>○「書くこと」の内容では、滋賀県の正答率は全国（60.7）を3.6ポイント下回った。             <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の主張が明確に伝わるように、文章全体の構成や展開を考えることに課題がある。</li> <li>・目的や意図に応じて理由を明確にししながら自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することに課題がある。</li> </ul> </li> <li>○「言葉の特徴や使い方に関する事項」で、滋賀県の正答率は全国（68.3）に対して3.6ポイント下回った。             <ul style="list-style-type: none"> <li>・漢字の書き取り、主語と述語の関係、修飾と被修飾の関係など、基本的な知識・技能の活用に課題がある。</li> </ul> </li> </ul> <p>◆正答数分布のグラフに着目すると…</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○0問から6問の正答数が少ない層の割合が大きく、全国の平均と比較すると、平成31年度は、差が2.8ポイントであるのに対し、今年度は4.9ポイントとなっており、広がりが見られる。</li> </ul> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>■「読み解く力に関連する問題」では…</p> <p>目的に応じて中心となる語や文を見付けてまとめたり、文章と図を結び付けるなどして必要な情報を見付けたりすることに課題がある。</p> </div>
<p>算 数</p>	<p>◆内容・領域や評価の観点、問題形式ごとに分析すると…</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○「図形」の領域では、滋賀県の正答率は全国（57.9）に対して3.7ポイント下回った。             <ul style="list-style-type: none"> <li>・三角形の面積の求め方の意味について理解することに課題がある。</li> </ul> </li> <li>○「数と計算」の領域では、滋賀県の正答率は全国（63.1）に対して3.4ポイント下回った。             <ul style="list-style-type: none"> <li>・「0.4倍」など小数を用いた倍の意味についての説明を解釈し、ほかの数値の場合に適用して、基準量を1としたときに比較量が示された小数に当たる理由を言葉や数を用いて記述することに課題がある。</li> </ul> </li> <li>○記述式問題においては、全国と同様、無解答率に課題が見られた。</li> </ul> <p>◆正答数分布のグラフに着目すると…</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○平成31年度全14問中、12問から14問の正答数の割合は、滋賀県が全国を1.5ポイント下回り、今年度全16問中、14問から16問の正答数の割合は、4.2ポイント下回っている。また、0問から6問の正答数の層では、平成31年度滋賀県が全国を2.2ポイント上回り、今年度は、1.6ポイント上回っている。</li> </ul> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>■「読み解く力に関連する問題（「データの活用」の領域）」では…</p> <p>目的に応じて帯グラフで表された複数のデータを比較し、示された特徴をもった項目とその割合を言葉と数を用いて記述できるかどうかをみることに課題が見られた。</p> </div>

【中学校】

<p>国 語</p>	<p>◆内容・領域や評価の観点、問題形式ごとに分析すると…</p> <p>○「書くこと」の領域では、滋賀県の平均正答率は全国（57.1）に対して全国平均を3.2ポイント下回った。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・書いた文章を読み返し、語句や文の使い方、段落相互の関係に注意して書くこと、伝えたい事柄が相手に効果的に伝わるように書くことに課題がある。</li> </ul> <p>○「読むこと」の領域では、滋賀県の平均正答率は全国（48.5）に対して全国平均を1.8ポイント下回ったものの、前回と比べると全国平均との差は縮まっており、改善が見られた。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・文章に表れているものの見方や考え方を捉え、自分の考えをもつことに課題がある。</li> </ul> <p>○記述式の問題の無解答率が、全国と比べて、高い傾向が見られた。</p> <p>○平成30年度小学校第6学年の結果と比べると、「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」において改善が見られた。</p> <p>◆正答数分布のグラフに着目すると…</p> <p>平成31年度の調査と比較すると、0問から7問の正答数が少ない層の割合は、前回は全国よりも大きい状況であったが、今回は改善が見られた。正答数が多い層（11問から14問）の割合は、全国と比べて小さいままである。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>■「読み解く力に関連する問題」では…</p> <p>登場人物の見方や考え方について自分の考えを述べるということを理解し、文章を読んで捉えたことについて自分の考えを形成することに課題がある。</p> </div>
<p>数 学</p>	<p>◆内容・領域や評価の観点、問題形式ごとに分析すると…</p> <p>○「図形」の領域では、滋賀県の平均正答率は全国（49.2）に対して2.2ポイント下回った。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・錯角が等しくなるための、2直線の位置関係を理解することに課題がある。</li> </ul> <p>○「関数」の領域では、滋賀県の平均正答率は全国（54.7）に対して1.7ポイント下回った。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日常的な事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することに課題がある。</li> </ul> <p>○「数と式」の領域では、滋賀県の平均正答率は全国（64.5）に対して0.4ポイント下回ったが、前回と比べると3.7ポイント増加した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・事柄が成り立つ理由を説明することに改善の傾向が見られた。</li> </ul> <p>○「資料の活用」の領域では、滋賀県の平均正答率は全国（54.2）に対して0.4ポイント上回った。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ただし、相対度数の必要性和意味を理解することに課題がある。</li> </ul> <p>○記述式問題においては、全国と同様、無解答率に課題が見られた。</p> <p>○平成30年度小学校第6学年の結果と比べると、「数と式」の領域において改善が見られた。</p> <p>◆正答数分布のグラフに着目すると…</p> <p>○平成31年度の調査と比較すると、0問から6問の正答数が少ない層の割合が減少し、13問から16問の正答数が多い層の割合が増加した。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>■「読み解く力に関連する問題」では…</p> <p>「図形」の領域において、ある条件の下で、いつでも成り立つ図形の性質を見だし、それを数学的に表現することに課題が見られた。</p> </div>

### 3 質問紙調査の結果概要

#### ○児童生徒質問紙調査

- ・質問項目数は、小学校 69 項目（昨年度より 2 項目減）、中学校 69 項目（昨年度より 2 項目減）となった。
- ・小中学校ともに去年（令和 2 年）4～5 月頃（新型コロナウイルスの感染拡大で多くの学校が臨時休業していた時期）に関する質問項目が 4 項目加えられた。

#### ○学校質問紙調査

- ・質問項目数は、小学校 102 項目（昨年度より 27 項目増）、中学校 102 項目（昨年度より 27 項目増）となった。
- ・小中学校ともに新型コロナウイルス感染症の影響を調査するための質問項目が 11 項目加えられた。

#### （1）「第Ⅱ期 学ぶ力向上滋賀プラン」における 3 つの視点の指標項目等

質問項目に対して、4 つの選択肢の中から最も肯定的な回答（「当てはまる」「そう思う」「よく行った」「よくしている」）を選択した割合（%）を示した。

\*1 ICT 機器の使用に関する質問項目は、「ほぼ毎日」を選択した割合を示した。

\*2 H31 調査の欄に数値のない質問項目は、平成 31 年度に実施されていない。

##### ① 視点 1 「学びを実感できる授業づくり」

質問項目	校種		H31 調査	R3 調査	前回調査との比較
授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか。 [児童生徒質問紙]	小	本県	29.8	27.2	-2.6
		全国	33.0	30.3	-2.7
	中	本県	27.3	33.0	+5.7
		全国	29.3	33.5	+4.2
授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか。 [児童生徒質問紙]	小	本県	22.6	21.9	-0.7
		全国	24.7	23.6	-1.1
	中	本県	14.9	18.7	+3.8
		全国	18.1	21.0	+2.9
5年生まで〔1, 2年生のとき〕に受けた授業で、コンピュータなどの ICT 機器をどの程度使用しましたか。*1 [児童生徒質問紙]	小	本県	14.5	12.7	-1.8
		全国	10.4	11.2	+0.8
	中	本県	10.6	10.8	+0.2
		全国	7.0	7.4	+0.4
あなたは学校で、コンピュータなどの ICT 機器を、他の友達〔生徒〕と意見を交換したり、調べたりするために、どの程度使用していますか。*1 *2 [児童生徒質問紙]	小	本県	-	8.7	-
		全国	-	10.0	-
	中	本県	-	7.4	-
		全国	-	9.7	-

② 視点2「学ぶ意欲を引き出す学習集団づくり」

質問項目	校種		H31 調査	R3 調査	前回調査との比較
将来の夢や目標を持っていますか。 [児童生徒質問紙]	小	本県	63.2	57.8	-5.4
		全国	65.9	60.2	-5.7
	中	本県	39.2	37.2	-2.0
		全国	44.9	40.5	-4.4
学級の友達との間／生徒の間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか。 [児童生徒質問紙]	小	本県	28.3	30.8	+2.5
		全国	30.3	33.0	+2.7
	中	本県	25.1	31.5	+6.4
		全国	28.3	33.9	+5.6
人が困っているときは、進んで助けていますか。 [児童生徒質問紙]	小	本県	37.1	41.6	+4.5
		全国	40.4	43.6	+3.2
	中	本県	27.8	36.7	+8.9
		全国	34.6	41.6	+7.0
学習規律（他の人が話をしている時はしっかりと聞く、授業開始のチャイムを守るなど）を維持しましたか。 <sup>*3</sup> [学校質問紙] <small>*3 平成31年度の質問項目は、「調査対象学年の児童に対して、前年度までに、学習規律（私語をしない、話をしている人の方を向いて聞く、聞き手に向かって話をする、授業開始のチャイムを守るなど）の維持を徹底しましたか。」であった。</small>	小	本県	46.6	55.0	+8.4
		全国	57.8	62.3	+4.5
	中	本県	56.7	72.5	+15.8
		全国	63.8	75.8	+12.0

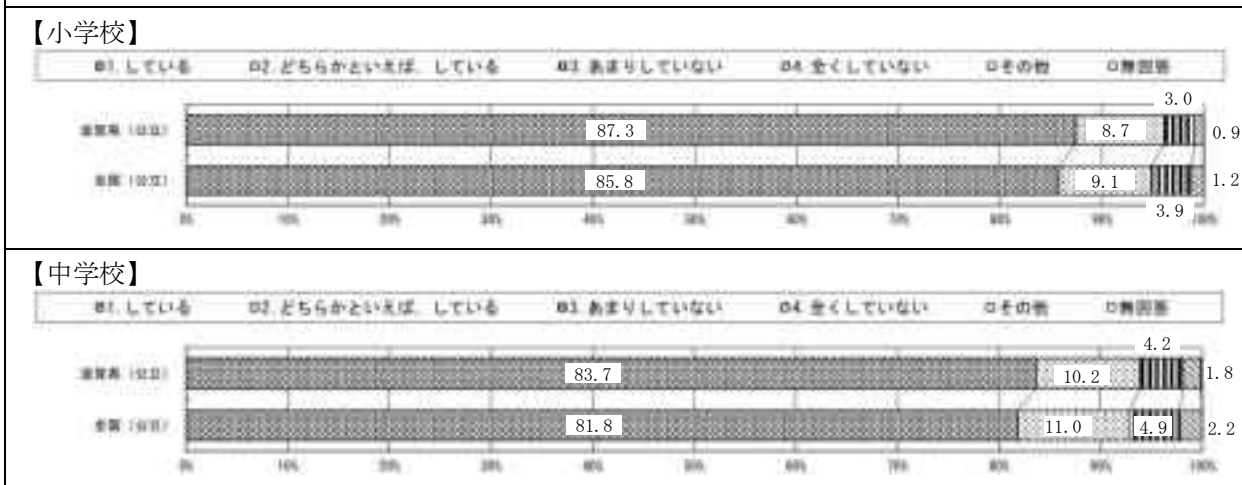
③ 視点3「子どものために一丸となって取り組む学校づくり」

質問項目	校種		H31 調査	R3 調査	前回調査との比較
学校全体の言語活動の実施状況や課題について、全教職員の間で話し合ったり、検討したりしていますか。[学校質問紙]	小	本県	30.5	34.1	+3.6
		全国	38.1	30.7	-7.4
	中	本県	16.5	16.7	+0.2
		全国	27.5	23.5	-4.0
前年度までに、近隣等の小/中学校と、教科の教育課程の接続や、教科に関する共通の目標設定など、教育課程に関する共通の取組を行いましたか。[学校質問紙]	小	本県	17.0	9.1	-7.9
		全国	22.8	17.0	-5.8
	中	本県	18.6	12.7	-5.9
		全国	26.1	23.5	-2.6
家庭学習の課題の課し方について、校内の教職員で共通理解を図りましたか。 [学校質問紙]	小	本県	-	41.8	-
		全国	-	40.6	-
	中	本県	-	21.6	-
		全国	-	34.0	-
校長のリーダーシップのもと、研修リーダー等を校内に設け、校内研修の実施計画を整備するなど、組織的、継続的な研修を行っていますか。 [学校質問紙]	小	本県	49.3	51.8	+2.5
		全国	70.1	61.8	-8.3
	中	本県	56.7	49.0	-7.7
		全国	63.2	54.3	-8.9

(2) 児童生徒の基本的な生活習慣および学習習慣に関する質問項目（児童生徒質問紙）

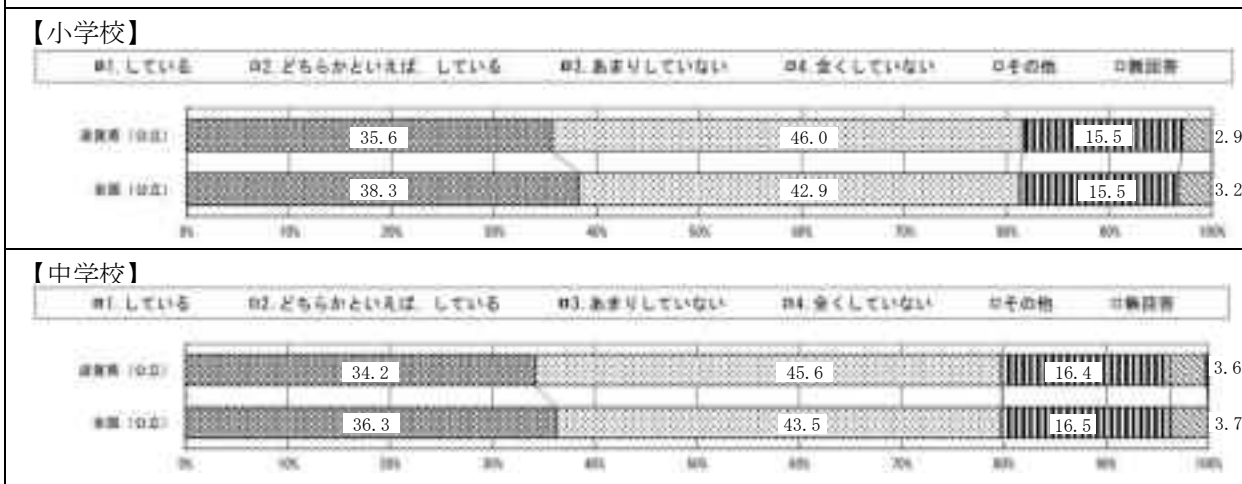
○朝食の摂取

朝食を毎日食べている。



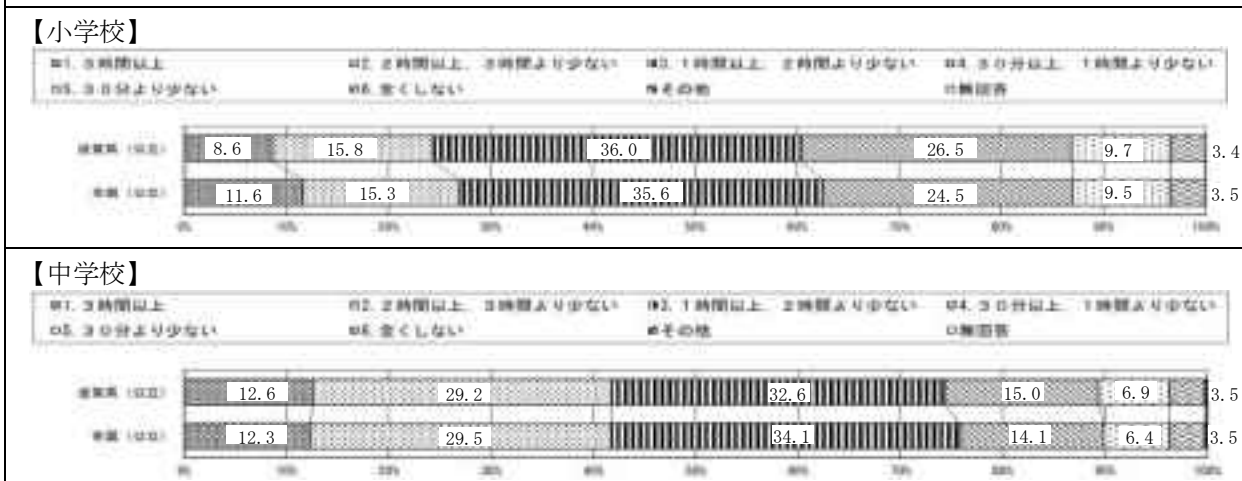
○就寝時刻

毎日、同じくらいの時刻に寝ている。



○家庭学習の時間

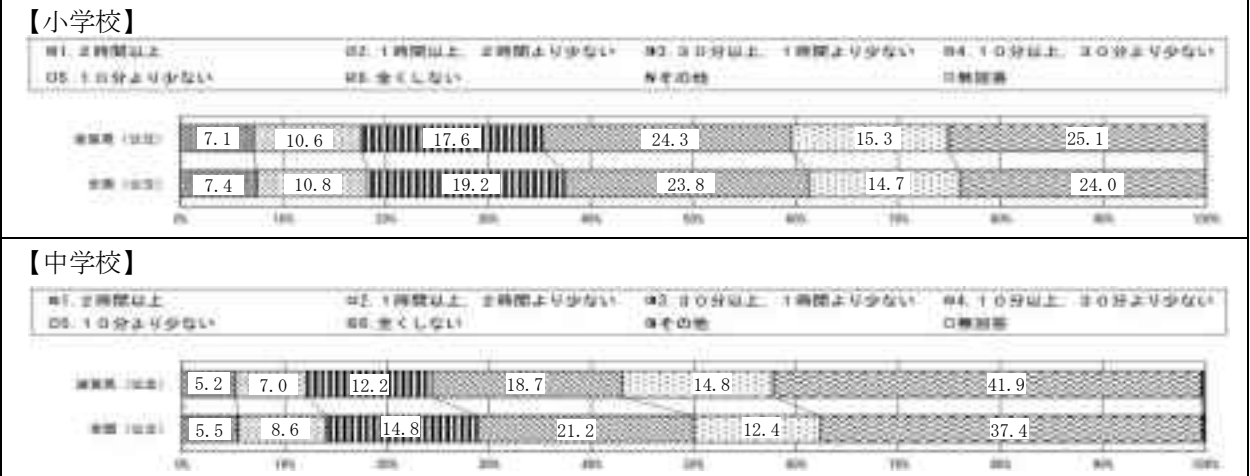
学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか。（学習塾で勉強している時間や家庭教師に教わっている時間も含まれます。）





## ○読書の時間

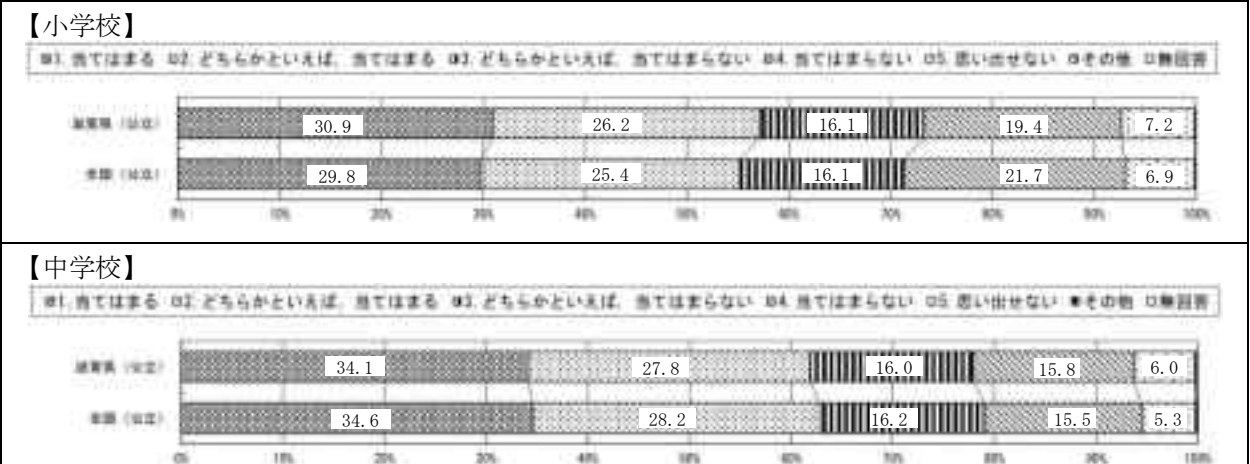
学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、読書をしますか。  
(教科書や参考書、漫画や雑誌は除きます。)



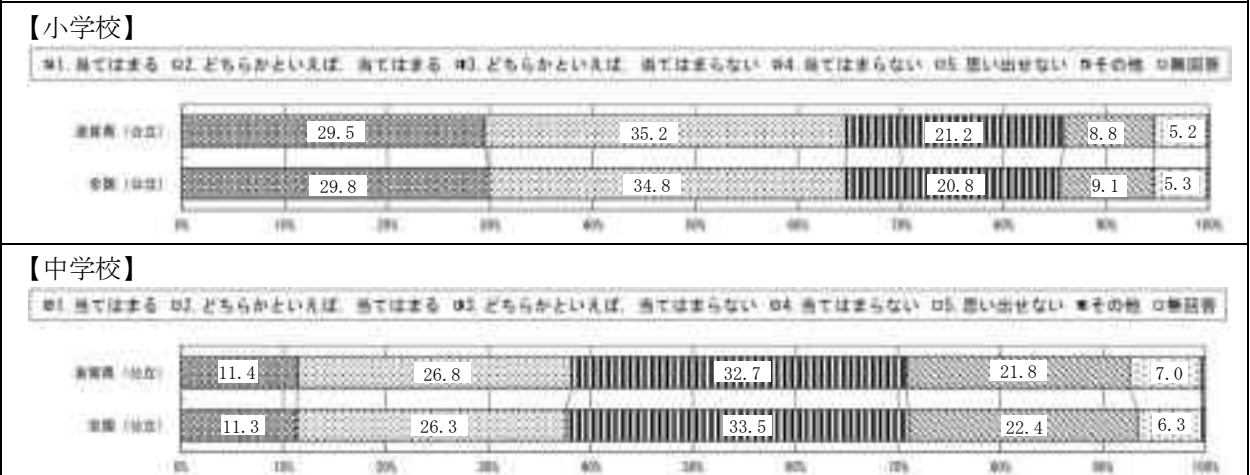
## (3) 新型コロナウイルス感染症の学習面への影響に関する質問項目 (児童生徒質問紙)

### ○新型コロナウイルスの感染拡大で多くの学校が休校していた期間中

勉強について不安を感じた。

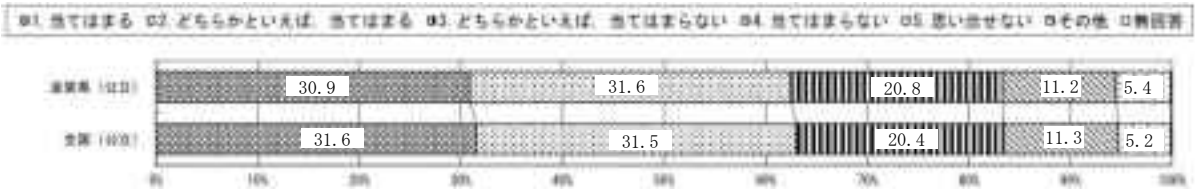


計画的に学習を続けることができた。

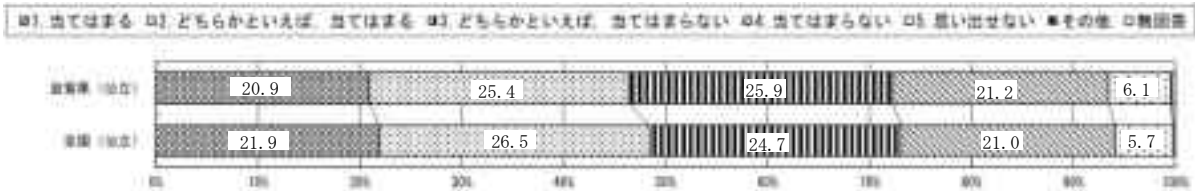


規則正しい生活を送っていた。

【小学校】

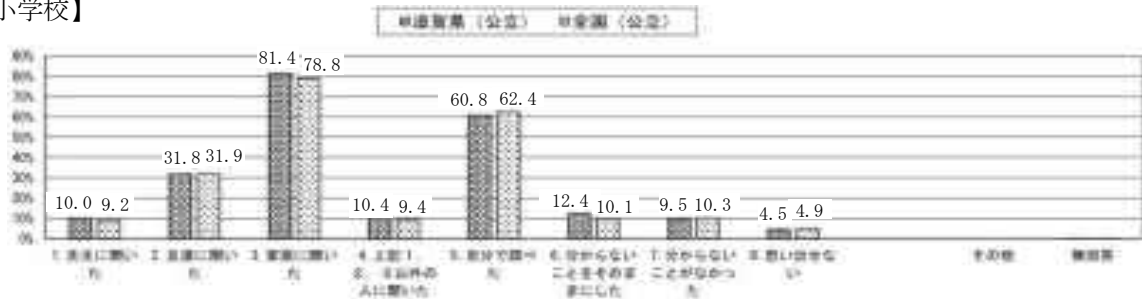


【中学校】

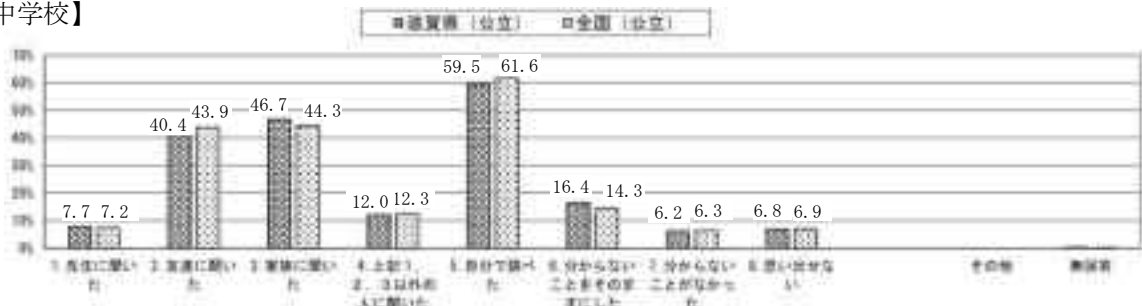


新型コロナウイルスの感染拡大で多くの学校が休校していた期間中、学校からの課題で分からないことがあったとき、どのようにしていましたか。あてはまるものをすべて選んでください。

【小学校】



【中学校】



令和3年度  
全国学力・学習状況調査の結果  
～文部科学省 公表資料より～

・ 調査の結果(文部科学省資料)	1
・ 教科に関する調査の結果【滋賀県：小学校】	24
・ 教科に関する調査の結果【滋賀県：中学校】	28
・ 児童質問紙【滋賀県：小学校】	33
・ 生徒質問紙【滋賀県：中学校】	57
・ 学校質問紙【滋賀県：小学校】	81
・ 学校質問紙【滋賀県：中学校】	111

滋賀県教育委員会事務局幼小中教育課

# 全国学力・学習状況調査の結果

扱い

新聞 令和3年9月1日朝刊  
ラジオ・テレビ・インターネット 令和3年8月31日17時以降

## 調査概要

- ◆調査日時：令和3年5月27日（木）
- ◆調査事項：①児童生徒：教科調査〔国語、算数・数学〕、質問紙調査  
②学校：質問紙調査
- ◆調査対象及び集計対象 児童生徒数・学校数：

	小学校				中学校			
	調査対象児童数※1	集計対象児童数※2	調査対象学校数	集計対象学校数	調査対象生徒数※1	集計対象生徒数※2	調査対象学校数	集計対象学校数
公立	1,040,907人	994,101人	18,965校	18,857校 (99.4%)	989,824人	903,253人	9,475校	9,320校 (98.4%)
国立	6,393人	4,932人	75校	61校 (81.3%)	10,146人	7,616人	80校	63校 (78.8%)
私立	13,071人	6,567人	240校	120校 (50.0%)	81,250人	22,126人	761校	297校 (39.0%)
合計	1,060,371人	1,005,600人	19,280校	19,038校 (98.7%)	1,092,580人	932,995人	10,316校	9,680校 (93.8%)

- ※1 調査対象児童生徒数について、公立及び国立は、調査実施前に学校から申告された児童生徒数、私立は、令和2年度学校基本調査による。調査当日までに増減した可能性がある。
- ※2 集計対象児童生徒数・学校数は、5月27日に調査を実施した数。集計対象児童生徒数は、回収した解答用紙が最も多かった教科の解答用紙の枚数で算出。

## ◆新型コロナウイルス感染症による影響について

調査日を例年より約1か月後ろ倒しするとともに、後日実施の期間を約1か月間に延長。

（5月28日～6月30日） ※後日実施の場合、採点及び調査結果の提供は行わが、全体集計からは除外。

- ・後日実施校数：小学校103校、中学校184校  
うち新型コロナウイルス感染症による影響（休校や学級閉鎖等）：小学校42校、中学校41校

## ◆児童生徒質問紙調査の端末を活用したオンラインによる実施について

児童生徒質問紙調査を、一部の国立大学附属学校(小学校：51校4314人、中学校：57校7035人)において、PC・タブレット等の端末を活用したオンラインによる回答方式で試行的に実施。

## 教科に関する調査結果概要

### ◆全国（国公私）の平均正答数・平均正答率

	小学校		中学校	
	国語	算数	国語	数学
令和3年度	9.1/14問 64.9%	11.3/16問 70.3%	9.1/14問 64.9%	9.2/16問 57.5%
(参考) 令和元年度	9.0/14問 64.0%	9.3/14問 66.7%	7.3/10問 73.2%	9.7/16問 60.3%

# 1. 教科に関する調査結果

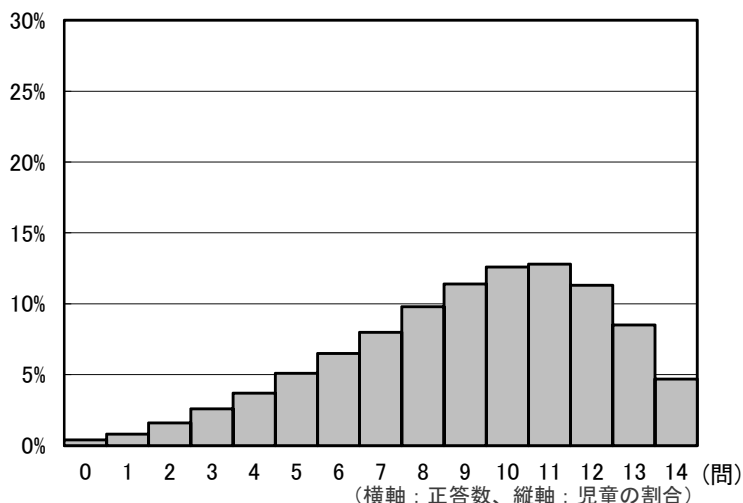
## 小学校国語

〈分類・区分別集計結果〉

分類	区分	対象 問題数 (問)	平均 正答率 (%)
学習指導要領の内容	知識及び技能	言葉の特徴や使い方に関する事項	6 68.5
		情報の扱い方に関する事項	0 -
		我が国の言語文化に関する事項	0 -
	思考力、判断力、表現力等	話すこと・聞くこと	3 77.9
		書くこと	2 60.8
		読むこと	3 47.4
評価の観点	知識・技能	6 68.5	
	思考・判断・表現	8 62.2	
問題形式	選択式	8 71.9	
	短答式	3 70.7	
	記述式	3 40.4	

〈小学校国語の児童の正答数分布グラフ〉

平均正答数	平均正答率	中央値	標準偏差	最頻値
9.1/14問	64.9%	10.0問	3.1問	11問



### 〈調査結果のポイント〉

- 新学習指導要領で示された「資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫すること」を踏まえた「話すこと・聞くこと」に係る出題について、**資料を用いる目的を理解したり、目的や意図に応じて、資料を使って話したりすることはできている。**
- **目的に応じて、文章と図表とを結び付けて必要な情報を見つけて読むことについて、引き続き課題がある。**

## ● 学習指導要領の内容別の主な特徴と指導改善のポイント

### 【言葉の特徴や使い方に関する事項】

- 思考に関わる語句（例えば、「～は～より…」といった複数の情報を比べる語句）の使い方を理解し、話や文章の中で使うことはできているが、文の中における主語と述語との関係、修飾と被修飾との関係を捉えることに課題がある。



**主語と述語との関係や修飾と被修飾との関係に気を付けて文を整えることが、自分の思いや考えを正確に伝える上で重要であると気付くことができるように指導することが大切である。**

### 【話すこと・聞くこと】

※具体的な設問例①参照

- 目的に応じて、話の内容が明確になるようにスピーチの構成を考えることはできている。
- 資料を用いる目的を理解したり、目的や意図に応じて、資料を使って話したりすることはできている。



目的や意図に応じて、資料を選択し、**聞き手に提示する資料のどの部分に着目してほしいのか、どのような説明を加えると話の内容を分かりやすく伝えられるのか**について検討し、**自分の表現に生かすことができるように指導することが引き続き大切である。**

## 【書くこと】

- 目的や意図に応じて、理由を明確にしなが、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することに課題がある。



自分の考えが伝わるように書くためには、**目的や意図に応じて、詳しく書く必要がある場合や簡単に書いた方が効果的である場合を、自ら判断して書くことができるように指導することが大切である。**

※具体的な設問例②参照

## 【読むこと】

- 文章全体の構成を捉え、内容の中心となる事柄を把握することはできている。
- 目的に応じて、文章と図表とを結び付けて必要な情報を見付けることに引き続き課題がある。また、目的を意識して、中心となる語や文を見付けて要約することに課題がある。



図表やグラフなどを含む文章を読む際に、文章中に用いられている**図表などが、文章のどの部分と結び付くのかを明らかにし、文章と図表との関係を捉えて読むことができるように指導することが大切である。**

## ●具体的な設問例

- ① **【話すこと・聞くこと】** 調べたことについて、資料を使ってスピーチをする

(大問1 津田梅子の紹介)

### 三 目的や意図に応じ、資料を使って話す問題

- ・【スピーチ】の練習で、資料を使って話す内容として適切なものを選択する問題

- 1 黒丸の印(・)の分布が示すように、教師になった卒業生は、一生懸命に学びました。
- 2 黒丸の印(・)の分布が示すように、教師になった卒業生は、日本のさまざまな地域で働きました。
- 3 黒丸の印(・)の分布が示すように、教師になった卒業生の数は、年ごとに増えていきました。
- 4 黒丸の印(・)の分布が示すように、教師になった卒業生の勤務校は、一部の地域にかたよっていました。

正答率: 81.1%



- ② **【読むこと】** 説明的な文章を読み、分かったことをまとめる (大問2 「面ファスナー」)

### 三 目的に応じ、文章と図表とを結び付けて必要な情報を見付ける問題

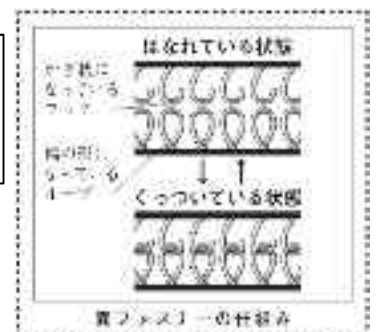
- ・資料の文章と図表をもとに、面ファスナーの開発のヒントとなったこととその仕組みについて、50字以上80字以内でまとめて記述する問題

正答率: 34.6%

【資料】狩猟のため、愛犬をつれて山に登ったジョルジュ・デ・メストラは、犬の毛に野生のゴボウの実がたくさんついていることに気がつきました。不思議に思い、その実を持ち帰って顕微鏡でくわしく調べてみると、ゴボウの実は先の曲がったかぎ状のトゲでおおわれていることがわかりました。そのトゲが犬の毛にからみついていたのです。このことをヒントにメストラは研究を重ね、数年後、特殊な素材を使い、面ファスナーを作り出しました。

(正答例)

メストラは、ゴボウの実が犬の毛にからみついていたことをヒントに、かぎ状のフックが輪の形をしたループに引っかかることでくっつく仕組みの面ファスナーを作り出した。(80字)



- ・ ヒントになったことは書いているが、仕組みは書いていない...39.0%
- ・ ヒントになったことは書いていないが、仕組みは書いている...11.8%
- ・ どちらも書いていない...8.8%

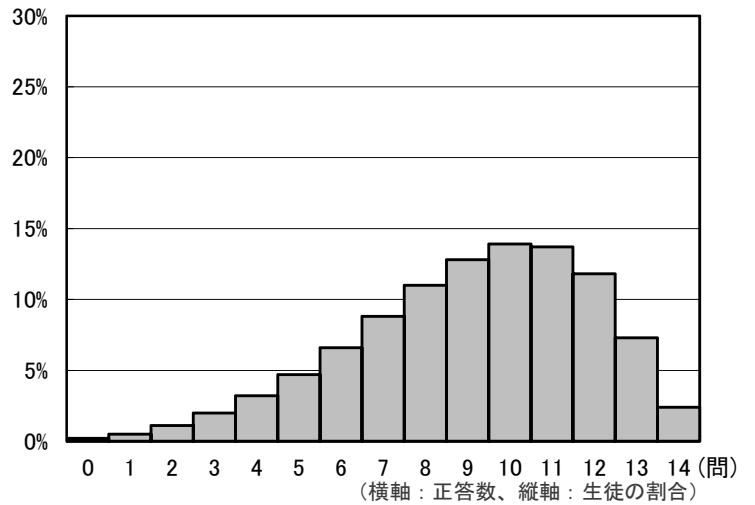
# 中学校国語

〈分類・区分別集計結果〉

分類	区分	対象 問題数 (問)	平均 正答率 (%)
学習指導要領の 領域等	話すこと・聞くこと	3	80.0
	書くこと	3	57.3
	読むこと	4	48.9
	伝統的な言語文化と国語の特質に 関する事項	4	75.4
評価の観点	国語への関心・意欲・態度	4	56.3
	話す・聞く能力	3	80.0
	書く能力	3	57.3
	読む能力	4	48.9
	言語についての知識・理解・技能	4	75.4
問題形式	選択式	6	64.2
	短答式	4	74.7
	記述式	4	56.3

〈中学校国語の生徒の正答数分布グラフ〉

平均正答数	平均正答率	中央値	標準偏差	最頻値
9.1/14問	64.9%	9.0問	2.8問	10問



## 〈調査結果のポイント〉

- 文章を読み、**登場人物の言動の意味を考え、内容を理解することはできているが、文章に表れているものの見方や考え方を捉え、自分の考えをもつことに課題**がある。
- 過年度の小学校調査において見られた課題に関連した出題において、**相手や場に応じて敬語を適切に使うことに課題**がある。

## ● 学習指導要領の内容別の主な特徴と指導改善のポイント

### 【話すこと・聞くこと】

- 話合いの話題や方向を捉えることはできているが、適切な発言について考えることに課題がある。



話合いを効果的に進め、互いの発言を踏まえて、考えをまとめたり広げたり深めたりする力を身に付けるために、第1学年では、**話題や展開を捉え**ながら、第2学年では、**互いの立場や考えを尊重し**ながら、第3学年では、**進行の仕方を工夫したり互いの発言を生かしたりしながら話し合う**ことなどについて、**意図的・計画的に指導を重ねることが大切**である。

### 【書くこと】

- 書いた文章を互いに読み合う場面において、文章の構成にどのような工夫があるかを捉えることはできているが、推敲する場面において、語句や文の使い方、段落相互の関係について考えることに課題がある。



読み手の立場に立ち、自分が書いた文章について捉え直し、分かりやすい文章に整える力を身に付けるために、第1学年では、**表記や語句の用法、叙述の仕方**などを、第2学年では、**表現の効果**などを、第3学年では、**目的や意図に応じた表現になっているかなどを確かめること**について指導する必要がある。



## 【読むこと】

※具体的な設問例①参照

- 文章を読み、登場人物の言動の意味を考え、内容を理解することはできている。
- 文章に表れているものの見方や考え方を捉え、自分の考えをもつことに課題がある。



文章の内容を理解したり自分の考えを形成したりする力を身に付けるために、「読むこと」の学習過程を意識しながら、例えば、**文学的な文章を読んで考えたことなどを記録したり伝え合ったりする言語活動を通して指導することが効果的である。**

## 【伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項】

※具体的な設問例②参照

- 文脈に即して漢字を正しく読むことはできている。
- 相手や場に応じて敬語を適切に使うことに課題がある。



敬語などの相手や場に応じた言葉遣いについて理解し、適切に使う力を身に付けるために、小学校での学習を踏まえ、**敬語に関する個々の体験的な知識を整理して体系付けるとともに、人間関係の形成や維持における敬語のもつ働きを理解するように指導することが大切である。**

## ●具体的な設問例

### ①【読むこと】文学的な文章を読む（大問3「吾輩は猫である」）

#### 三 登場人物の言動の意味を考え、内容を理解する問題

正答率:71.5%

- ・「反対の結果を呈出した」について、このことが分かる「黒」の様子を文章の中から抜き出す。

(正答例)

- ・彼は喟然として大息している
- ・すこぶるおこったようすで背中を逆立てている

### ②【伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項】電子メールを書く（大問4「焼き物作りの体験」）

#### 三 相手や場に応じて敬語を適切に使う問題

正答率:40.9%

- ・メールの下書きの「行く」を適切な敬語に書き直し、その敬語の種類を次の1から3までの中から一つ選ぶ。

1 尊敬語    2 謙譲語    3 丁寧語

(正答の条件)

「伺う」「参る」「ご訪問する」「お訪ねする」など、状況に合う敬語に直し、「2 謙譲語」を選択しているもの

- ・状況に合う敬語に直しているが、「2 謙譲語」を選んでいない…16.6%
- ・「2 謙譲語」を選んでいるが、状況に合う敬語を書けていない…16.3%
- ・上記以外の解答…24.4%  
(例:「いらっしゃる」、「1 尊敬語」)

青木さんが送信する【二回目のメールの下書き】



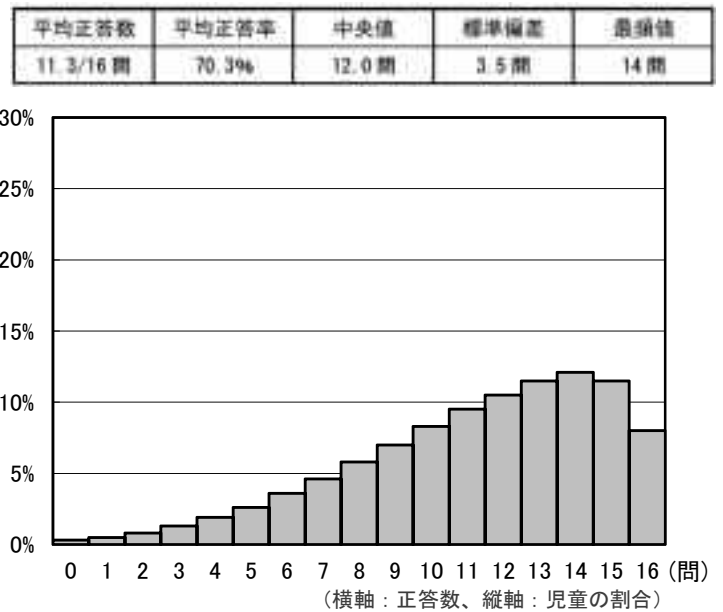


# 小学校算数

〈分類・区分別集計結果〉

分類	区分	対象 問題数 (問)	平均 正答率 (%)
学習指導要領の 領域	数と計算	4	63.3
	図形	3	58.1
	測定	3	74.9
	変化と関係	3	76.0
	データの活用	5	76.1
評価の観点	知識・技能	9	74.3
	思考・判断・表現	7	65.2
問題形式	選択式	6	76.2
	短答式	6	75.9
	記述式	4	53.2

〈小学校算数の児童の正答数分布グラフ〉



## 〈調査結果のポイント〉

- 速さと道のりを基に、時間を求める式に表すことはできているが、速さを求める除法の式と商の意味を理解することに課題がある。
- 「データの活用」の領域について、帯グラフで表された複数のデータを比較し、示された特徴をもった項目とその割合を記述することに課題がある。

## ● 学習指導要領の領域・内容別の主な特徴と指導改善のポイント

### 【数と計算】

- 示された除法の結果について、日常生活の場面に即して判断することはできている。
- 商が1より小さくなる等分除（整数）÷（整数）の場面で、場面から数量の関係を捉えて除法の式に表し、計算をすることに課題がある。



除法の場面では、数量の関係に着目して被除数と除数を捉えて立式をしたり、計算結果について、日常生活の場面に即して判断したりできるように指導することが大切である。

### 【図形】

- 三角形の面積の求め方について理解することに課題がある。
- 二等辺三角形を組み合わせた平行四辺形の面積の求め方を記述することに課題がある。



図形の面積を求める際、図形を構成する要素などに着目して必要な情報を選び出し、面積の求め方について筋道を立てて説明できるように指導することが大切である。

**【変化と関係】**

- 速さと道のりを基に、時間を求める式に表すことはできている。
- 速さを求める除法の式と商の意味を理解することに課題がある。



速さを比べる場合には、**伴って変わる二つの数量の関係に着目し、それらの関係を用いたり、単位量当たりの大きさの意味及び表し方を理解し、単位量当たりの大きさをういて比べたりできるように指導することが大切である。**

**【データの活用】**

- 棒グラフから、項目間の関係を読み取ることはできている。
- 帯グラフで表された複数のデータを比較し、示された特徴をもった項目とその割合を記述することに課題がある。



身の回りの事象について、**データに基づいて判断する統計的な問題解決の方法を知り、その方法で考察できるようにすることが重要である。**

**●具体的な設問例**

**①【変化と関係】 日常の事象を数理的に捉え数学的に表現・処理すること (大問1 地域めぐり)**

**(3) 速さを求める除法の式から、商の意味として適切なものを選ぶ問題**

	道のり (m)	時間 (分)
㉑ オナーシート	1600	20
㉒ ひげふんふんも	500	7

㉑ オナーシート:  $1600 \div 20 = 80$   
 ㉒ ひげふんふんも:  $500 \div 7 \approx 71.4$

**正答率: 56.0%**

- 1 1分間あたりに進む道のりは80mと約71mなので、㉒のほうが速い。 …22.8%
- 2 1分間あたりに進む道のりは80mと約71mなので、㉑のほうが速い。 …6.8%
- 3 1mあたりにかかる時間は80分と約71分なので、㉒のほうが速い。 …9.4%
- 4 1mあたりにかかる時間は80分と約71分なので、㉑のほうが速い。 …22.8%

**(5) 速さと道のりを基に、時間を求める式に表す問題**

(正答) <式>  $2700 \div 540$

**正答率: 85.2%**

**②【データの活用】 統計的な問題解決の方法を用いた考察 (大問3 図書アンケート)**

**(4) 帯グラフで表された複数のデータを比較し、示された特徴をもった項目とその割合を言葉と数を用いて記述する問題**



**正答率: 52.2%**

(正答例)  
 5年生と6年生で、「あてはまる」と答えた人の割合のちがいが、いちばん大きい項目は、  
 ①図書室に行く時間がないです。  
 5年生が15%で、6年生が80%です。

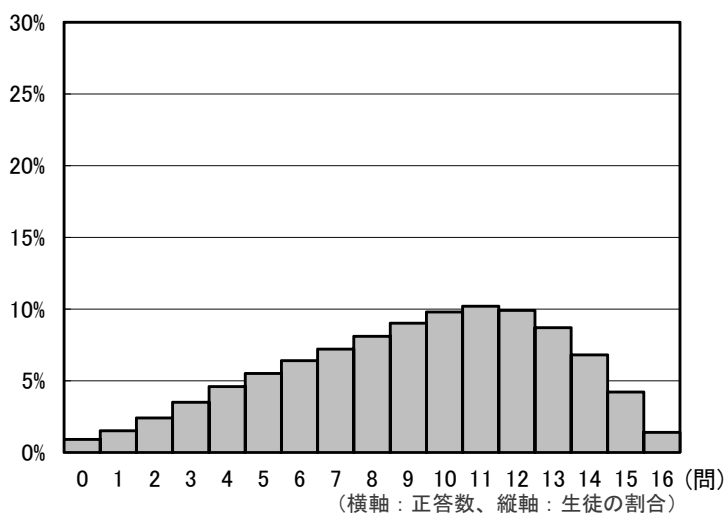
# 中学校数学

〈分類・区分別集計結果〉

分類	区分	対象 問題数 (問)	平均 正答率 (%)
学習指導要領の 領域等	数と式	5	65.3
	図形	4	51.8
	関数	3	56.8
	資料の活用	4	54.0
評価の観点	数学への関心・意欲・態度	0	-
	数学的な見方や考え方	7	41.5
	数学的な技能	3	77.9
	数量や図形などについての 知識・理解	6	65.9
問題形式	選択式	2	52.8
	短答式	9	70.8
	記述式	5	35.5

〈中学校数学の生徒の正答数分布グラフ〉

平均正答数	平均正答率	中央値	標準偏差	最頻値
9.2/16問	57.5%	10.0問	3.7問	11問



## 〈調査結果のポイント〉

- 「関数」の領域について、**日常的な事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することに引き続き課題**がある。
- データに基づいて事象を考察する場面において、データから**中央値を求めることに改善の傾向**がみられる。一方、2つの分布の傾向を比べる際の**相対度数の必要性と意味の理解に課題**がある。

## ● 学習指導要領の領域・内容別の主な特徴と指導改善のポイント

### 【数と式】

- 整式の加法と減法の計算をすることはできている。
- 数学的な結果を事象に即して解釈し、事柄の特徴を数学的に説明することに課題がある。



数の性質について成り立つ事柄の特徴を数学的に説明することができるようにするために、**文字を用いて表した計算結果を事象と関連付けて読み取る活動を充実することが大切である。**

### 【図形】

- ある条件の下で、いつでも成り立つ図形の性質を見だし、それを数学的に表現することに課題がある。



ある条件の下で図形を動かしたとき、**辺や角などについていつでも成り立つ性質を見だし、それを数学的に表現する活動を充実することが大切である。**

【関数】

※具体的な設問例①参照

- 与えられた表やグラフから、必要な情報を適切に読み取ることにはできている。
- 日常的な事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することに引き続き課題がある。



日常生活における問題を数学を活用して解決できるようにするために、問題解決の方法に焦点を当て、**表、式、グラフの中から用いるものを明確にするとともに、その使い方を適切に表して問題解決の方法を説明する活動を充実することが大切である。**

【資料の活用】

※具体的な設問例②参照

- 与えられたデータから中央値を求めることはできている、改善の傾向がみられる。
- 2つの分布の傾向を比べる際の相対度数の必要性と意味の理解に課題がある。

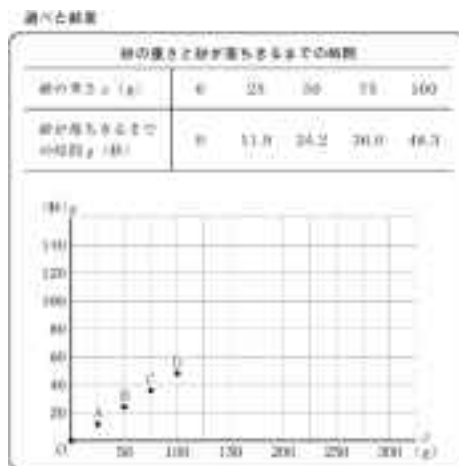


相対度数の必要性や意味を理解するために、**大きさの異なる2つ以上の集団のデータについて、その傾向を比較する活動を充実することが大切である。**

●具体的な設問例

①【関数】 日常的な事象の数学化と問題解決の方法 (大問7 砂時計)

(2) 与えられた表やグラフを用いて、2分間をはかるために必要な砂の重さを求める方法を説明する問題



正答率:28.2%

(正答例)

- ・ 原点  $O$  を通る直線のグラフをかき、 $y = 120$  のときの  $x$  座標を読む。
- ・  $y$  を  $x$  の比例の式で表し、その式に  $y = 120$  を代入し、 $x$  の値を求める。

・ グラフを用いることは記述しているが、 $y = 120$  のときの  $x$  座標を読むことについて記述していない...14.6%

・ 式を用いることは記述しているが、 $y = 120$  を代入して  $x$  の値を求めることについて記述していない...6.1%

②【資料の活用】 資料の散らばりと代表値 (大問5)

(2) 与えられたデータから中央値を求める問題

下の記録は、ある中学校の男子生徒10人が反復横とびを20秒間行ったときの結果を、回数の少ない方から順に並べたものです。

記録

43	46	46	52	53	55	56	56	56	57
----	----	----	----	----	----	----	----	----	----

(単位:回)

反復横とびの記録の中央値を求めなさい。

正答率:84.4%

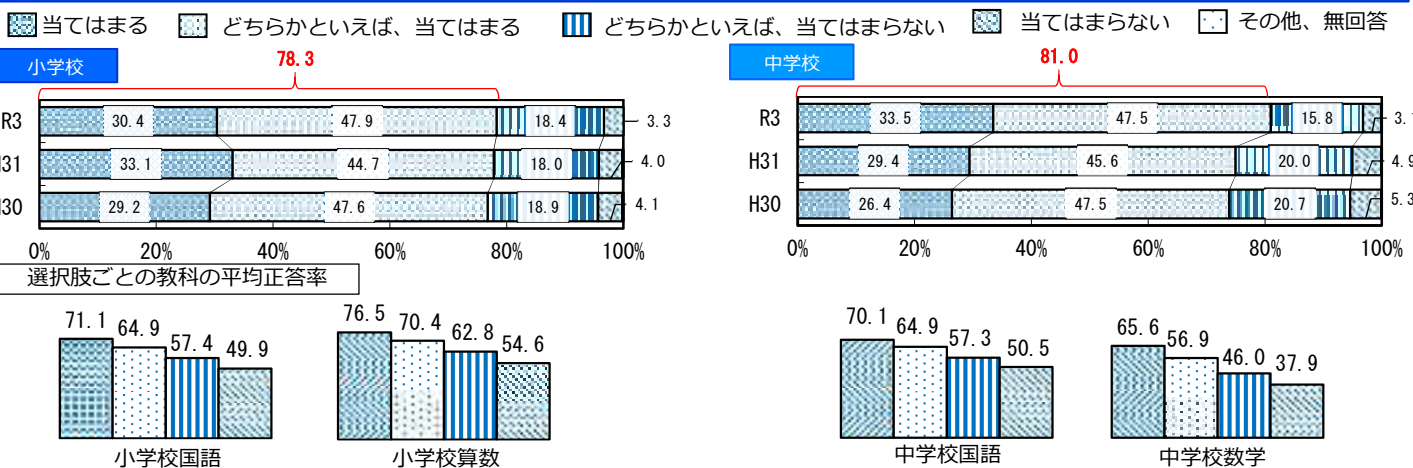
(正答) 54 (回)

## 2. 質問紙調査結果（児童生徒、学校）

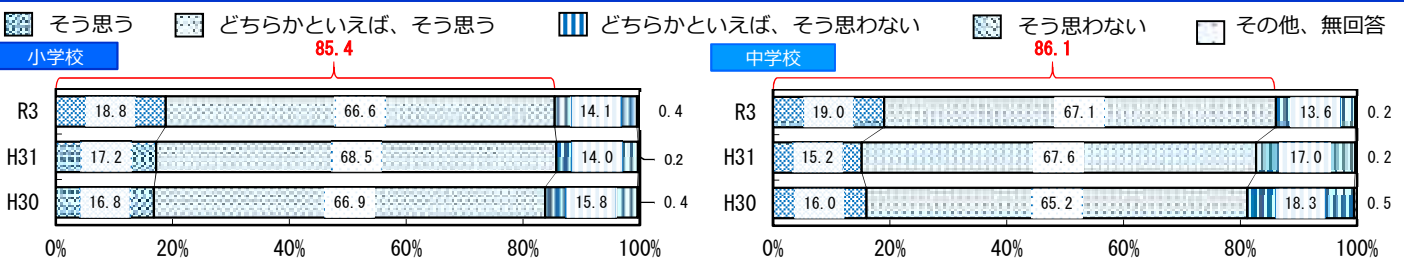
### 2(1). 主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する取組状況①

- ◆「授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」との質問に肯定的に回答した割合は特に生徒で増加しており（児童生徒ともに約80%）、この質問に肯定的に回答した児童生徒ほど各教科の平均正答率が高い傾向が見られた。
- ◆また、学校質問紙における同様の質問に肯定的に回答した小中学校の割合も85%を超えており、学校の就学援助を受けている児童生徒の割合に関わらず、この質問に肯定的に回答した学校ほど、全ての教科において平均正答率が高い傾向が見られた。
- ◆「本やインターネット、図書館資料などを活用した授業を計画的に行いましたか」との質問に「週に1回程度、または、それ以上行った」「月に数回程度行った」と回答した割合は、平成29年度の回答から小中学校ともに25ポイント以上増加している。

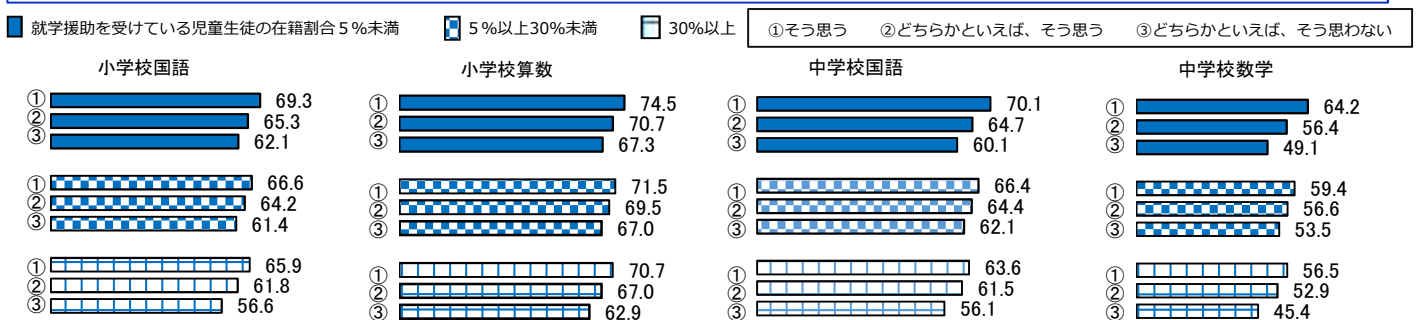
【児童生徒質問紙】授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか。



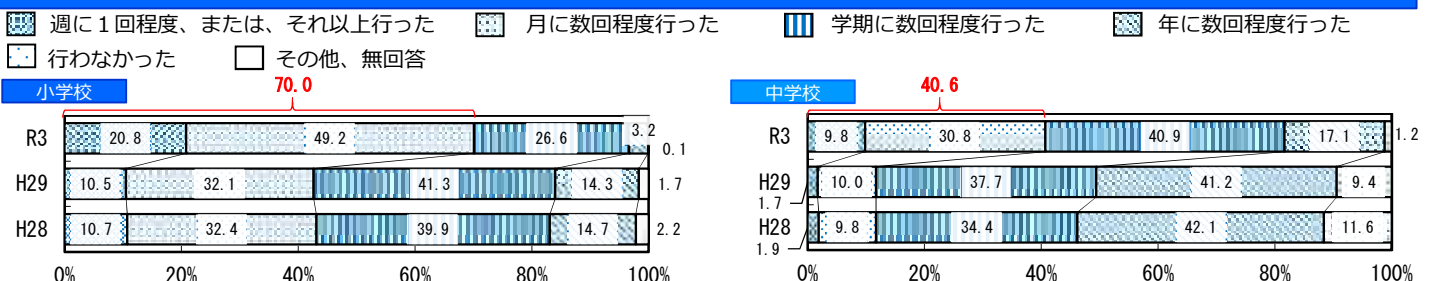
【学校質問紙】授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むことができていると思いますか。



三重クロス分析（就学援助率×「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むことができていると思うか」×各教科の平均正答率）



【学校質問紙】調査対象学年の児童生徒に対して、前年度に、本やインターネット、図書館資料などを活用した授業を計画的に行いましたか。



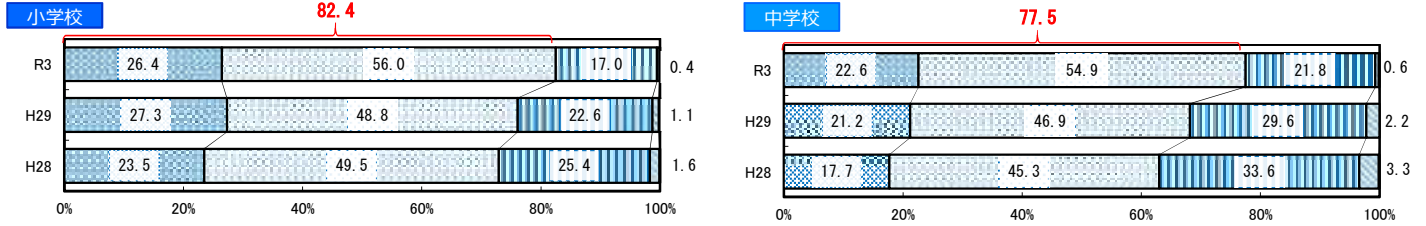


## 2(1). 主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する取組状況②

- ◆「児童生徒自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動」についての学校の取組はいずれも増加しており、小中学校ともに約80%の学校で校内研修が行われ、授業においても80%以上の学校がそのような学習活動を取り入れていると回答している。
- ◆「話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができているか」との質問に肯定的に回答した小中学校及び児童生徒の割合は増加しており、いずれも約80%となっている。

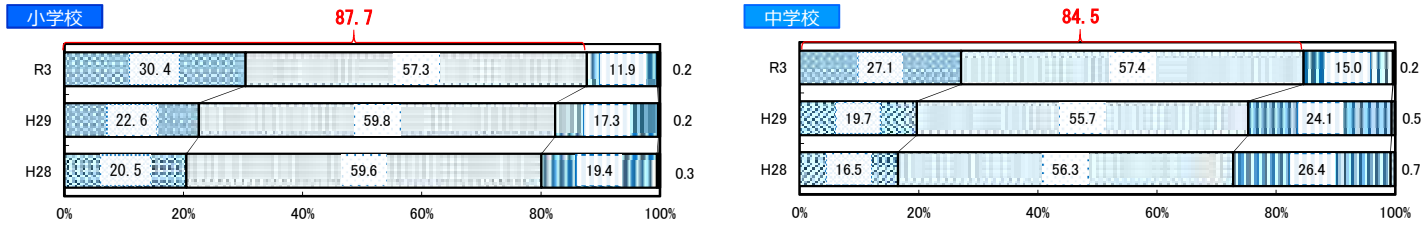
【学校質問紙】児童生徒自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を学ぶ校内研修を行っている。

よくしている    どちらかといえば、している    あまりしていない    全くしていない    その他、無回答



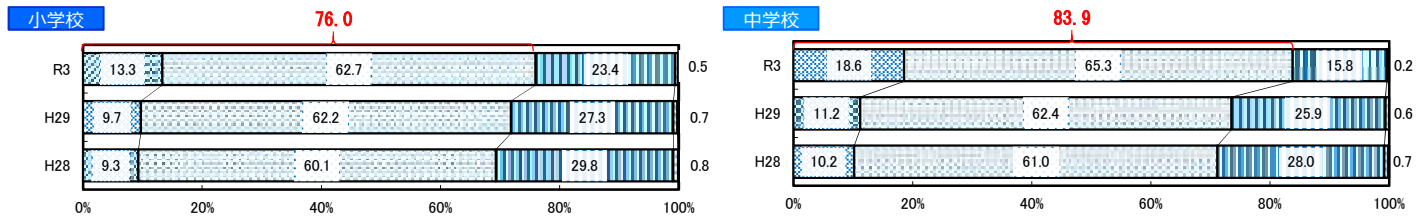
【学校質問紙】授業において、児童生徒自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を取り入れた。

よく行った    どちらかといえば、行った    あまり行わなかった    全く行わなかった    その他、無回答



【学校質問紙】児童生徒は、学級やグループでの話し合いなどの活動で、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか。

そう思う    どちらかといえば、そう思う    どちらかといえば、そう思わない    そう思わない    その他、無回答



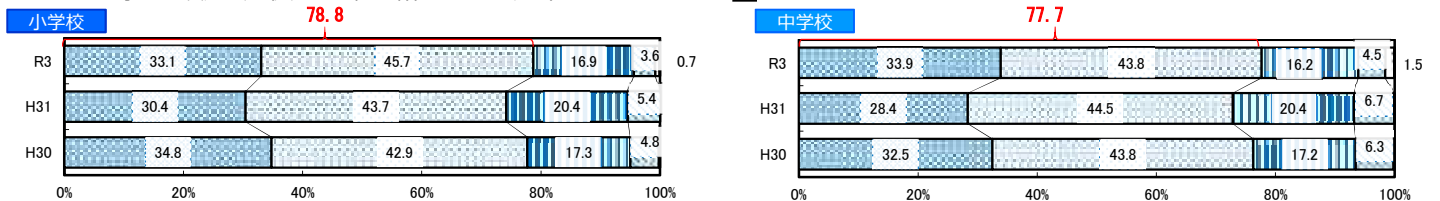
選択肢ごとの教科の平均正答率

- ◆「児童生徒は、学級やグループでの話し合いなどの活動で、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」との質問に肯定的に回答した学校ほど、各教科の平均正答率が高い傾向が見られた。



【児童生徒質問紙】学級の友達〔生徒〕との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか。

当てはまる    どちらかといえば、当てはまる    どちらかといえば、当てはまらない    当てはまらない  
学級の友達〔生徒〕との間で話し合う活動を行っていない    その他、無回答

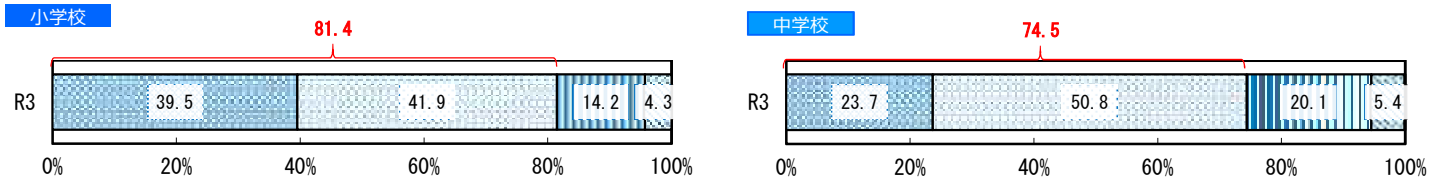


## 2(1). 主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する取組状況③

- ◆**個に応じた指導（個別最適な学び）の状況**について、「**授業は、自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていたか**」との質問に**肯定的に回答した児童生徒の割合は児童で80%以上、生徒で70%以上**であった。
- ◆「**授業は、自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていたか**」との質問に**肯定的に回答した児童生徒ほど、「家で自分で計画を立てて勉強している」と回答した割合が高い傾向**が見られた。
- ◆「**授業は、自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていたか**」との質問に**肯定的に回答した児童生徒ほど、「国語、算数・数学の勉強が好きだ」と回答した割合が高い傾向**が見られた。

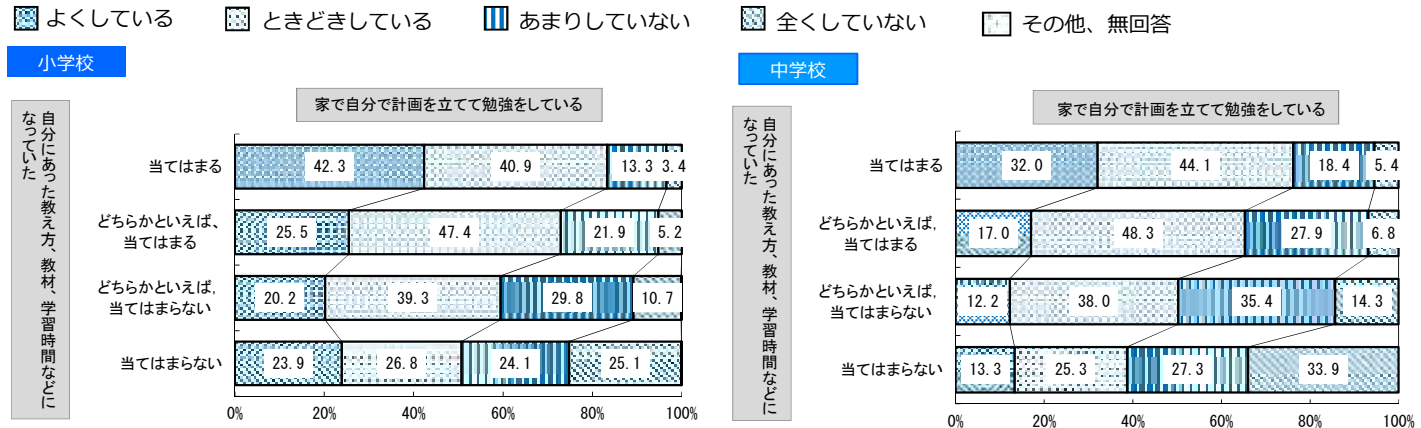
【児童生徒質問紙】授業は、自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていた。（新規）

☑ 当てはまる    ☑ どちらかといえば、当てはまる    ☑ どちらかといえば、当てはまらない    ☑ 当てはまらない    ☑ その他、無回答



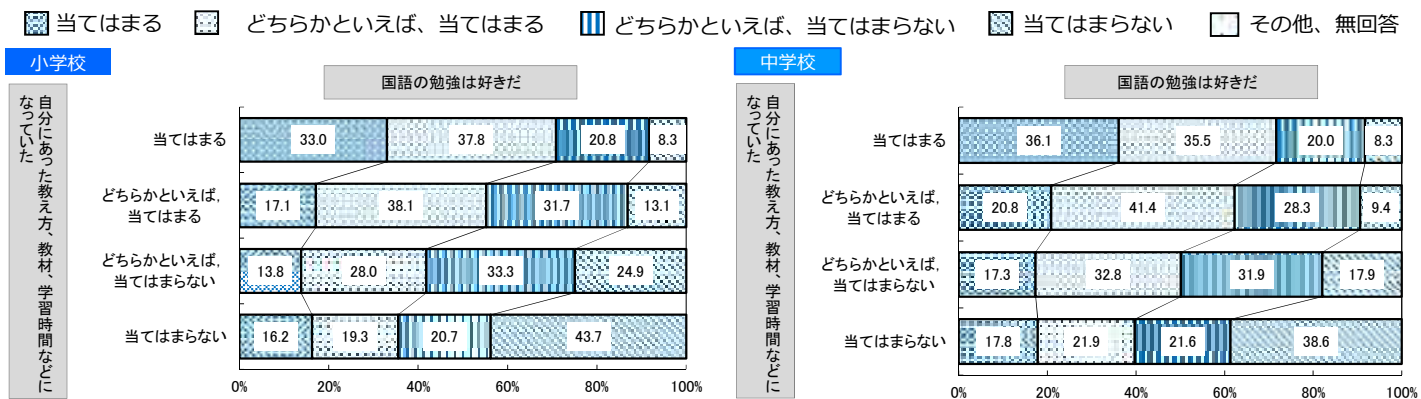
（児・生）授業は、自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていた。

✕ （児・生）家で自分で計画を立てて勉強をしていますか。



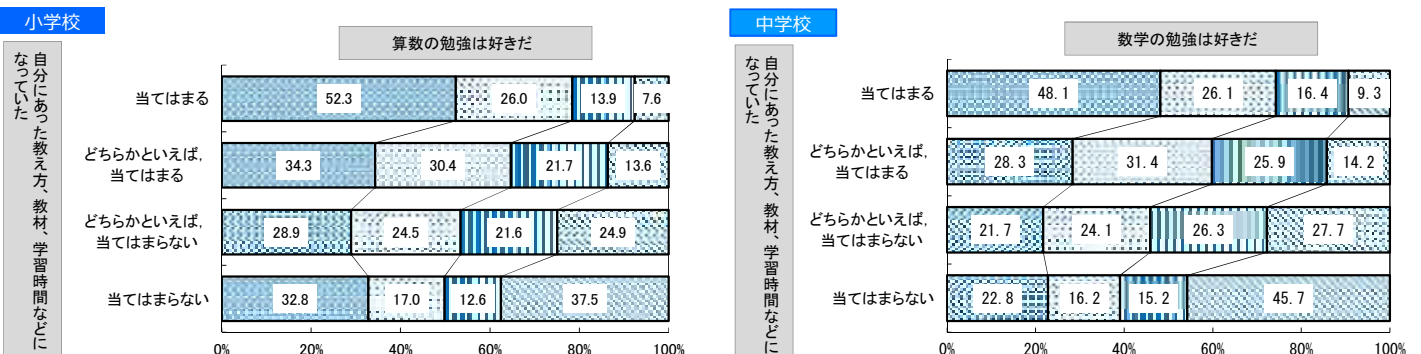
（児・生）授業は、自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていた。

✕ （児・生）国語の勉強は好きだ。



（児・生）授業は、自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていた。

✕ （児・生）算数[数学]の勉強は好きだ。

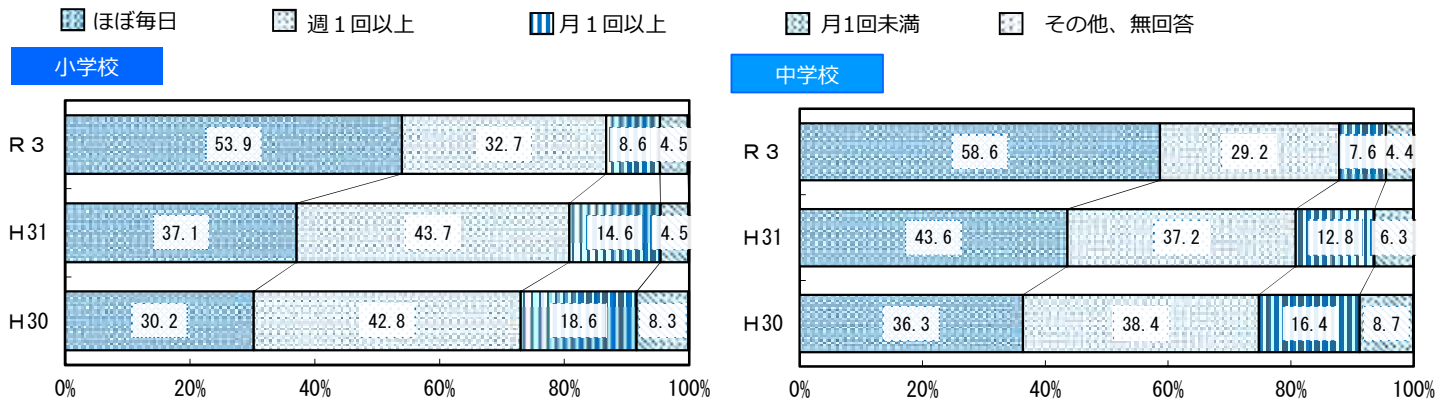


## 2(2). ICTを活用した学習状況 (ICTの活用頻度①)

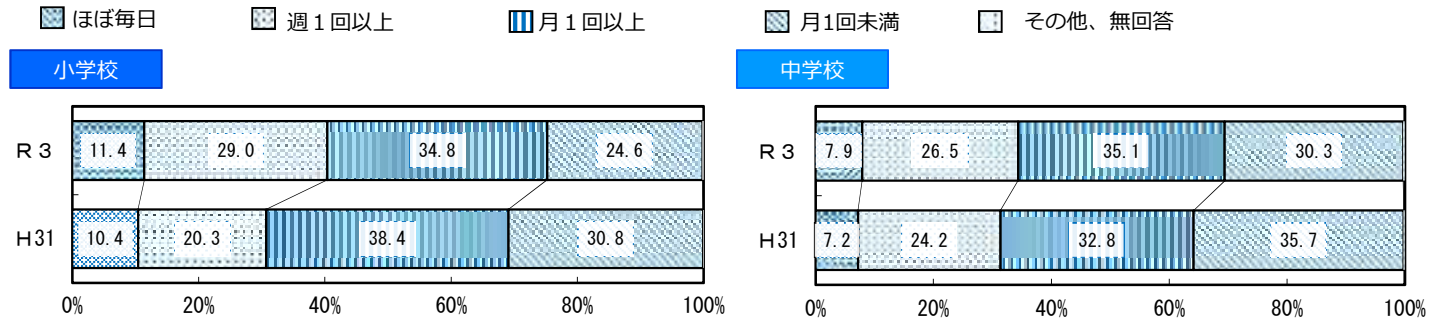
- ◆ICTを活用した授業の頻度は増加しており、「ほぼ毎日実施した」と回答した小中学校の割合は50%以上である。
- ◆児童生徒の授業でのコンピュータなどのICT機器の使用頻度は増加しており、特に小学校では「ほぼ毎日」「週1回以上」と回答した児童の割合が約10ポイント増加している。
- ◆「あなたは学校で、コンピュータなどのICT機器を、他の友達〔生徒〕と意見を交換したり、調べたりするために、どの程度使用していますか」との質問について、「ほぼ毎日」と回答した児童生徒の割合は約10%、「ほぼ毎日」と「週1回以上」をあわせると約40%である。
- ◆「学習の中でコンピュータなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと思いますか」との質問について、肯定的に回答した児童生徒の割合は90%を超えており、高い割合となっている。

※1人1台端末は、文部科学省調査「GIGAスクール構想の実現に向けたICT環境整備の進捗状況について（確定値）」（令和3年3月末時点）において、「全自治体のうち1,748自治体等（96.5%）が令和2年度内に端末の納品を完了する見込み」とであるとされている。

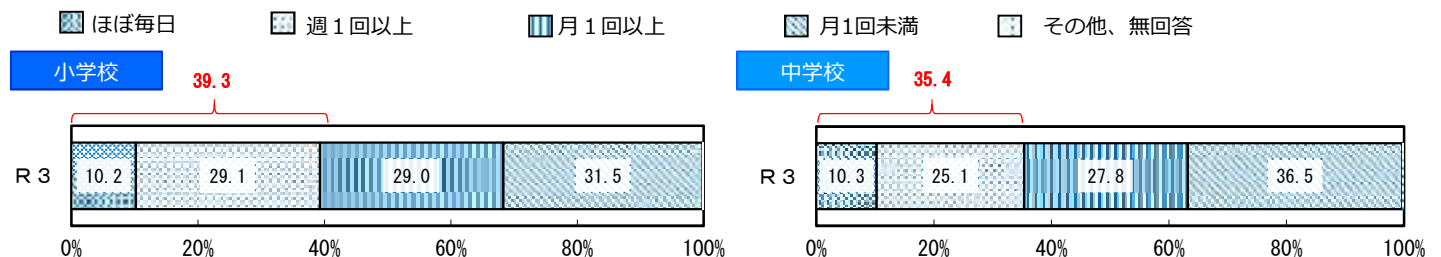
【学校質問紙】前年度に、教員が大型提示装置（プロジェクター、電子黒板など）などのICT機器を活用した授業を1クラス当たりどの程度行いましたか。



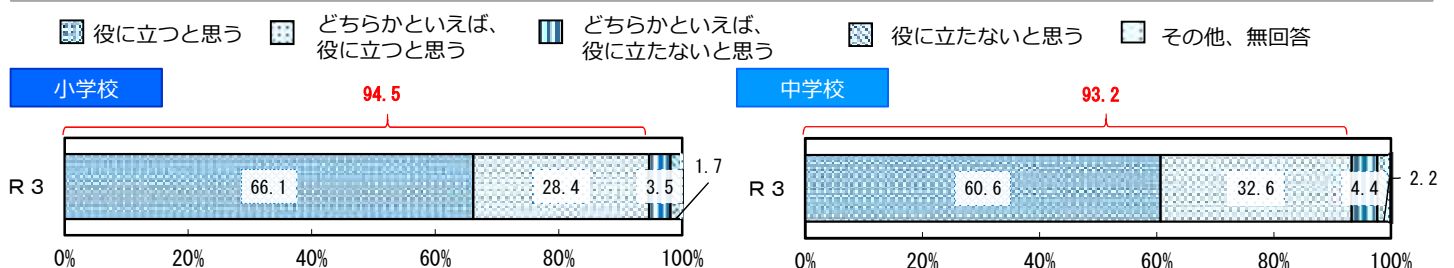
【児童生徒質問紙】前年度までに受けた授業で、コンピュータなどのICT機器をどの程度使用しましたか。



【児童生徒質問紙】あなたは学校で、コンピュータなどのICT機器を、他の友達〔生徒〕と意見を交換したり、調べたりするために、どの程度使用していますか。（新規）



【児童生徒質問紙】学習の中でコンピュータなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと思いますか。（新規）



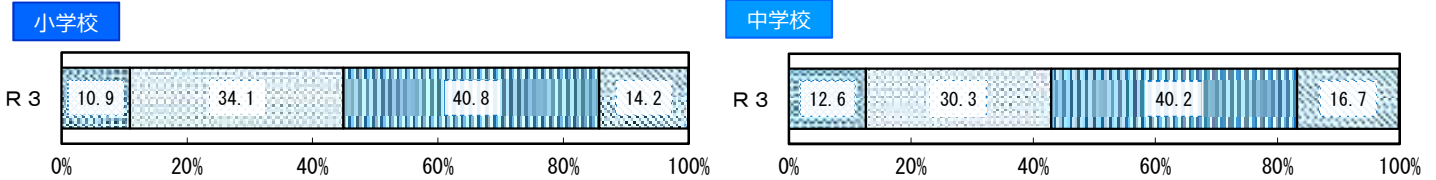


## 2(2). ICTを活用した学習状況 (ICTの活用頻度②)

- ◆小中学校におけるICT機器を活用した取組について、「教職員と児童・生徒がやり取りする場面」では約10%が「よく活用している」と回答している。
- ◆「あなたの学校では、生徒一人一人に配備されたPC・タブレット等の端末を、どの程度家庭で利用できるようにしていますか」との質問について、「毎日持ち帰って、毎日利用させている」「毎日持ち帰って、時々利用させている」「時々持ち帰って、時々利用させている」と回答した小中学校の割合は約20%である。

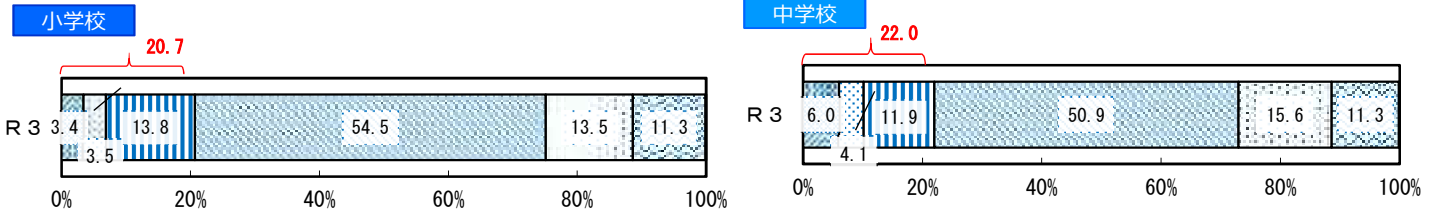
【学校質問紙】あなたの学校では、次のようなコンピュータなどのICT機器を活用した取組をどの程度行っていますか。教職員と児童生徒がやりとりする場面（新規）

よく活用している   どちらかといえば、活用している   あまり活用していない   全く活用していない   その他、無回答



【学校質問紙】あなたの学校では、児童生徒一人一人に配備されたPC・タブレット等の端末を、どの程度家庭で利用できるようにしていますか。（新規）

毎日持ち帰って、毎日利用させている   毎日持ち帰って、時々利用させている   時々持ち帰って、時々利用させている  
持ち帰らせていない   持ち帰ってはいけないこととしている   まだ配備されていない   その他、無回答



【1人1台端末の導入状況】と【ICTを活用した取組の頻度】 / 【ICT端末の家庭での利用状況】の関係

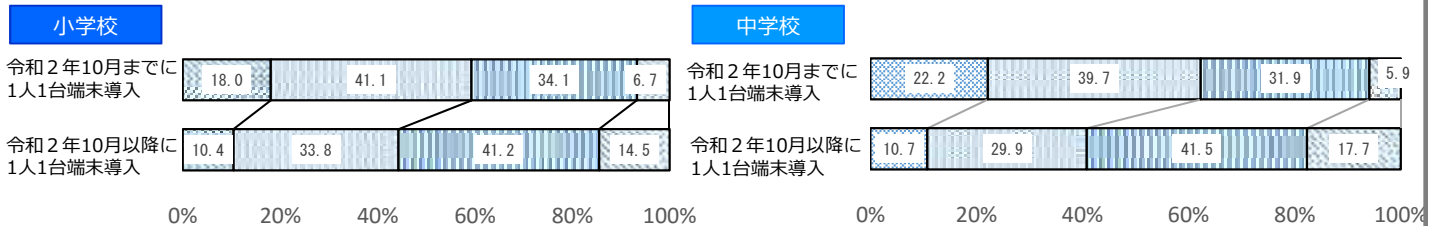
- ◆1人1台端末を令和2年10月までに導入した自治体とそれ以降に導入した自治体のICT機器を活用した取組の状況（教職員と児童生徒がやり取りする場面）を比較すると、**令和2年10月までに導入した自治体の方が、「よく活用している」「どちらかといえば活用している」と回答した学校の割合が高い。**
- ◆1人1台端末を令和2年10月までに導入した自治体とそれ以降に導入した自治体のICT端末の家庭での利用状況を比較すると、**令和2年10月までに導入した自治体の方が、「持ち帰って利用させている」と回答した学校の割合が高い。**

1人1台端末の導入状況



(学校) あなたの学校では、次のようなコンピュータなどのICT機器を活用した取組をどの程度行っていますか。②教職員と児童生徒がやりとりする場面

よく活用している   どちらかといえば、活用している   あまり活用していない   全く活用していない   その他、無回答

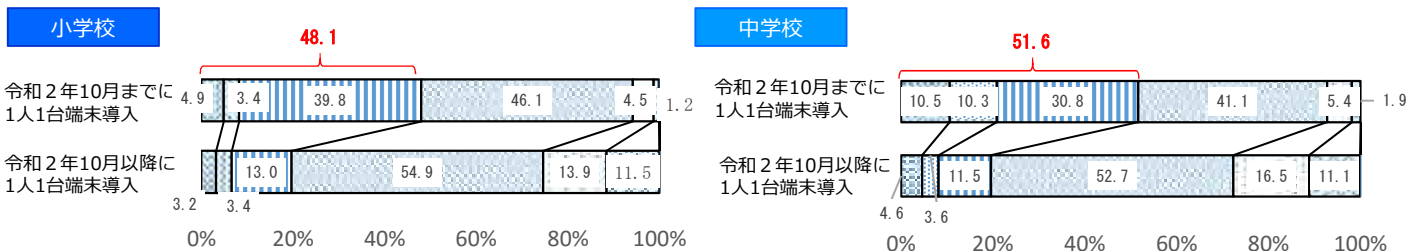


1人1台端末の導入状況



(学校) あなたの学校では、児童生徒一人一人に配備されたPC・タブレット等の端末を、どの程度家庭で利用できるようにしていますか。

毎日持ち帰って、毎日利用させている   毎日持ち帰って、時々利用させている   時々持ち帰って、時々利用させている  
持ち帰らせていない   持ち帰ってはいけないこととしている   まだ配備されていない   その他、無回答



※データは公立のみ